

愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会事務局御中

検討会の部会について

20100920

奥村昭雄

前回、会議開催の前に「対案」の提出を希望され、提出いたしましたところ、事前に各委員にお渡しくださったので、今回も10月1日に開かれる「第1回の部会に対して」予め要望を提出します。

第3回検討会に提出した私の意見の中で申し上げたように、部会では

1. 参考人に聞く
2. 資料を検討する

をやりたいと要望します。本会議では細かい検討をする時間がないので、よく解らないまゝで話が進んでいる部分があります。よく解りたいということで、よく解っている人＝参考人、に説明してもらいながら考えたいのです。説明してもらいたいことは、第1回～5回に提出した意見の中に書いていますので順々をお願いします(あとにメモを付けました)。参考人は委員の指名によって、誰にでもなってもらえるように公平にしてください。

また、第4回検討会に提出した意見では、現実に困っていることを、同時並行的に直して行くための具体的な改修の実行方法の検討を要望しました。これも部会の仕事です。早速やってみるべきこととして

1. レッスン室・練習室の遮音と防音の改修(あとに東京芸大の例などとの比較のメモを付けました)
2. 同上の耐震・耐暑・耐寒
3. モデルトイレの改修

を提案しています。実際にやってみることで多くの収穫が得られると思うし、意見が異なる問題についての客観的な解答が得られるでしょう。

愛知芸大の施設を整備したいと思っている仲間なのですから、共通の目的に対して、客観性の有る、より有効な方法をとることに異議はないと思います。これに要する予算措置については県にお願いします。

というわけで初めて行われる「部会」は、その運営のやり方と、とりあげるべき内容、討議の優先順位などを、最初に話し合うべきであります。検討会本会議と同じ日にやる、というのは賛成できません。ある日、始めて出てきた図面に対して「了承してくださったとしていいですか」と言われたのと同じような、拙速で形式的な部会になることを恐れます。部会は納得できるような勉強の会でありたいと思うし、本会議に対して実のある報告が出来るようにしたいと思うからです。



また、部会についてはありませんが、次回第6回のビジョン検討会は、傍聴人にたいする人数制限の無い、公開の検討会とされることを提案します。

さいごに、もう一点、これも部会の問題とは関係ありませんが、検討会事務局が第5回の会議録の最後を「ではご了解いただいたとする」とまとめられた第5回ビジョン検討会そのもの(議事録受取9月10日・9月9日付)に関して、別紙の文章を知事・県民生活部長・学事振興課長ならびに法人理事長に提出しましたので写しを検討会事務局にも提出いたします。

もう一つ、東京目白の吉村順三記念ギャラリーにおいて開催されている「小さな建築展」の第22回目《御蔵山の家》(2010年6月26日～8月1日)のチラシを参考に同封しました。この家の設計は、愛知芸大の教職員住宅の設計にも関係のある考え方です。打ち放しコンクリートの素朴な感覚や、厚合板1枚で作る間仕切りなど、このスタディは住宅の設計史上注目すべきものであると思います。

以上

メモ第1回～第5回までの検討会に提出している「解りたいこと」

- 第1回 自然保護の識者に愛知芸大構内の水系についてうかがいたい。
将来の全体計画を考えた場合の基本的な動線計画と敷地境界の確認
- 第2回 1966年以來の維持管理体制と保守の実績
良くないとされるものの洗い出し(耐震・アスベスト・バリアフリーを含む)。
緊急な改修の必要に対する実際の工事方法
環境保護についての努力目標
県はどのような理由で改修から改築に(140億から280億に)方針をかえたのか。その経緯と論理。
女子寮を「いらない」から壊すという前に転用の要望があった。どうなったか。
- 第4回 困っていることを、試しに直してみることは出来ないか。
治助トンネルの調査
- 第5回 レッスン室・練習室の遮音その他の改修方法の比較検討。
奏楽堂の防音についての技術的な可能性
駐車場についての位置と規模と全体の動線計画
排水計画の再検討
各建物の手の入れ方の決め方。それぞれについての理由。

東京芸大の例など、との比較のメモ

既存建物をどうしても建て替えなくてはならない理由がだんだん絞られてきました。

音楽学部の「渡り廊下」「搬入口」は改良の余地があり、「防音」「遮音」についてもドアや窓の取り替えと、壁とスラブの増し打ちで改良する方法があることも解ってきました。レッスン室と練習室は耐震診断もクリアしているということです。奏楽堂の座席数と容積の関係、残響時間の事も許容範囲であるのが解り、安心しました。

残る問題はレッスン室と練習室についてだけです。そこに集中して考えてみます。

最初、天井高さが低いのでボウイングのときにぶつかる、という話が大きく取り上げられていましたが、これは素人に解り易いための一つの例である、との説明を受けましたので問題から除きます。もっと客観的に考えたいと思います。

- ① 面積が足りない。練習室は最低 9 m²ほしいということですが現在の練習室は 8.55 m²しかありません。それでも東京芸大の 8.4 m²よりちよつとは大きい。レッスン室は 3 倍なので 25.66 m²です。レッスン室を半分にして練習室にしたら 12.83 m²になりますがどうでしょう。

東京芸大の場合、1号館レッスン室は $6.8 \times 4 = 27.2$ m²

同上 3階邦楽練習室は $2.0 \times 4 = 8$ m²

3号館レッスン室は $4.8 \times 4.2 = 20.16$ m²

同上練習室は $4 \times 2.1 = 8.4$ m² (53室あります)

練習ホール館 5階アンサンブル練習室は $6.425 \times 6.3 = 40.5$ m²

この部屋の改修後の天井高さは 2.795m

同上 1階～5階練習室は $4.125 \times 4.2 = 17.325$ m² (30室)

天井高さ 1階は 2.8m、2～5階は 2.4m

愛知芸大の場合、練習室 $2.16 \times 4.32 + 3.6/2 = 8.55$ m²

レッスン室 $8.55 \times 3 = 25.66$ m²

天井高さは低いところで 2.49m 高いところで 2.7m 平均 2.595m

県の改修案によると床を 30 → 115 にしているの

天井高さ、低いところ 2.345m 高いところ 2.555m 平均 2.45m

日建設計の改修案では、床は 30 のまゝですからスラブと合計 150 です。吊り天井の分を 350 とすると天井高さ 2.56m になります。ギザギザにして 210 としたとして低いところで 2.35m 高いところで 2.56m 平均 2.455m。

- ② 天井が低い。F～Fが 3.06m ですが、床に 90 増し打ちしたとしても天井の 350 を 270 にすれば 2.55m となり、ギザギザ 210 でも平均 2.445m です。

2.2m しかとれないというのは計算違いです。

東京芸大の場合上記のように練習室の天井高さは 2.400 です。

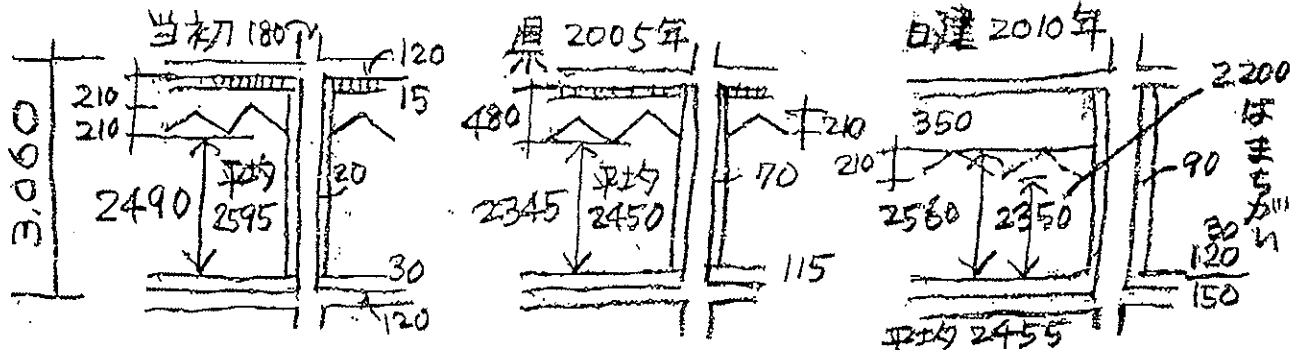
4号館3階の室内楽教員室(4-309) $4.2 \times 11.1 = 46.62 \text{ m}^2$

同上合奏室(4-307) $4.2 \times 8.4 = 35.28 \text{ m}^2$

同上合奏室 (4-308) $8.4 \times 11.6 = 97.44 \text{ m}^2$

以上3室の天井高さは既存2.700を改修して2.3~2.5平均2.4mであります。
愛知芸大のレッスン室と練習室の天井高さについて

「当初の案」「県の改修案」「日建設計の案」を実際の図で比べて見ました。



今はどこの音大もきれいな新しい練習室を持っているのに愛知芸大ばかりが旧態依然とした古い校舎で、これでは生徒が集まらない、と思っているということが本当の理由でありましょう。天井が低いから、ではないと思います。

③遮音は床と壁のコンクリートを増し打ち出来ませんか。やり方はいろいろあると思います。耐震が大丈夫ならばOK。面積はレッスン室で 1.4 m^2 減ります。練習室の1つおきの隔壁は当初やったような木造または県の改修案によることも可能です。

④音が洩れる。ソルフェージュの試験のときに音が漏れるとほかの人に問題が解ってしまうということですが殆ど洩れないように出来ると思います。ドアと窓の問題です。

ちなみに前述の東京芸大4号館3階の合奏室の改修の仕様をみますと

床はフローリングブロック張り→複合フローリング浮き床に

壁は有孔合板張り→GW化粧吸音板張り浮き壁に

天井は合板格天井→ケイカル板張り・ロックウール吸音板張り・防振吊りに

アルミサッシュ→アルミ防音窓に

アルミドア→鋼製防音扉に

改修しています。ほかにも材料と工法についてはいろいろなやり方があります。

⑤改修が不可能という問題はありません。汚いから綺麗にしたいということでしょう。床の材料や色、壁や天井の材料や色、工夫次第できれいになると思います。

⑥奏楽堂もガラスをやめて壁にしなくても、種々の方法で飛行機の音も防ぐことが出来ます。

以上

吉村順三記念ギャラリー

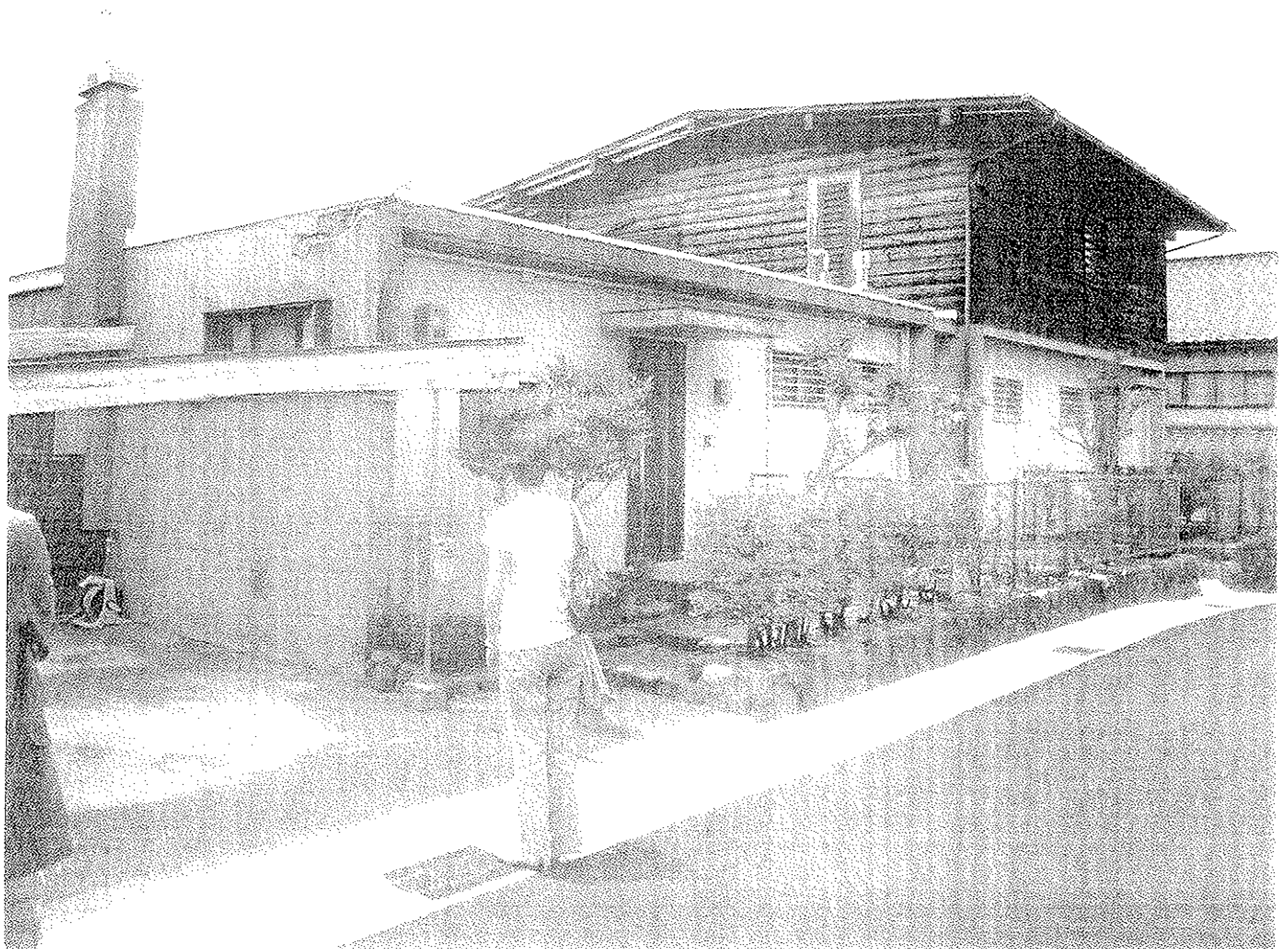
JUNZO YOSHIMURA Memorial Gallery

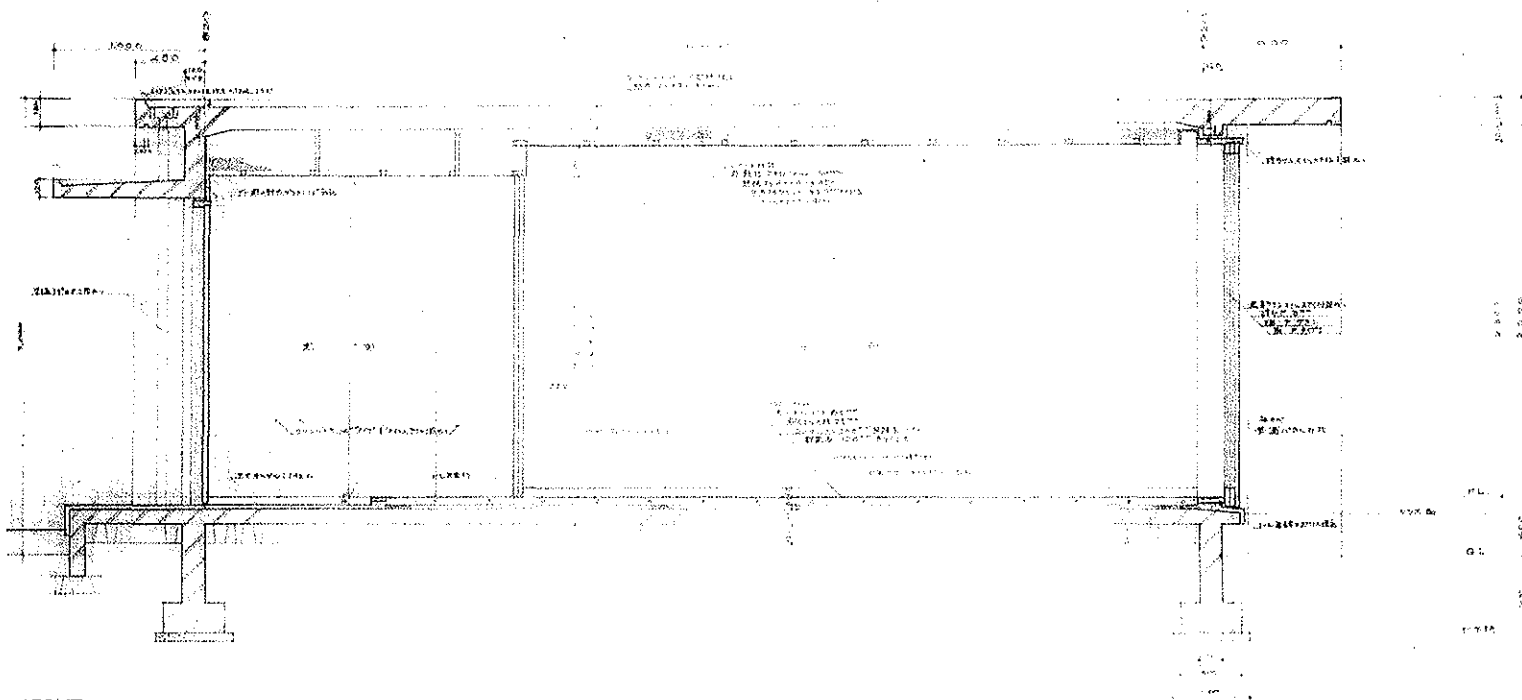
御蔵山の家

展示期間：2010年6月26日(土)より9月1日(日)までの
各土曜日と日曜日の 13:00~18:00

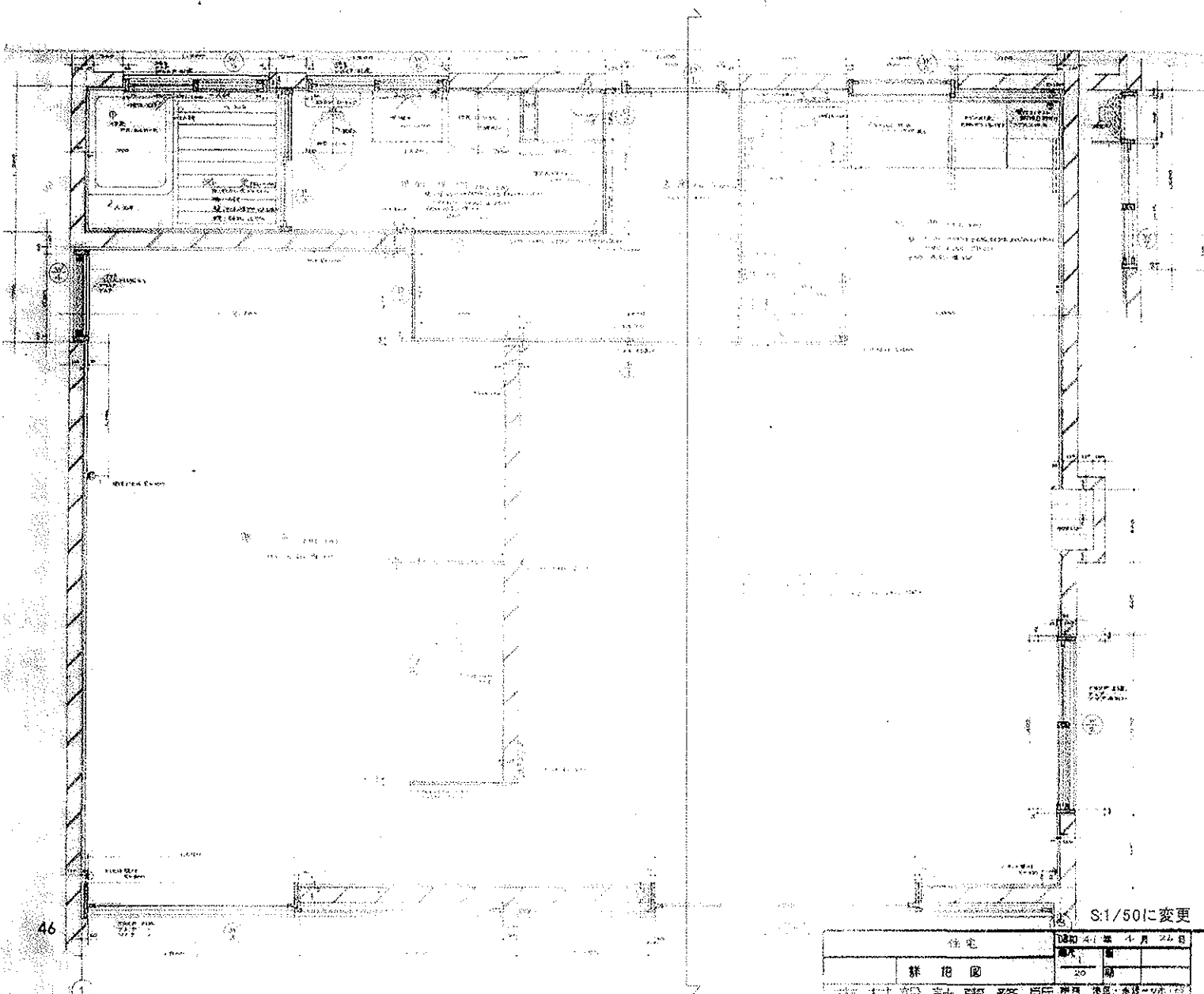


小さい・安い・暮らしやすい、の三位一体の家。RCの平屋で53.5㎡(16.18坪)。設計は多分1964年から始まって2年以上かけ、その間に担当者が4人、交代した。その間、平面は17種類、東西スパンは11種、南北は8種やった。木造も1ヶあった。なぜそんなに種類があったのか。それは吉村が、いろいろ、よく、考えたということ。原寸図をどんなにたくさん書いたことか。展開図も良く見てほしい。この家のディテールは今、消えるかもしれないと言われている愛知芸大の教員住宅に生きている。次に、この家がどのようにして成長したかということ。石井修さんが、あとを引き継いでくださり、2度の増築をして現在の姿(この頁の写真)になっている。今、住んでおられる方の家族の成長に従って自然な増築が、姿も機能も良く行われ、現在に至っている。「子供たちが独立したので、さあ、減築して、元の形にしようかしら。」と両親がおっしゃっているという。建物の一生、ということがここに実際の形で生きている。(文責 奥村まこと)





矩計図 S:1/50



46

S:1/50に変更

住宅		昭和41年4月22日	
棟	番	20	00
設計事務所		〒100 東京都千代田区千代田1-1-1	
設計		TEL 1032-7800	

愛知県知事 神田 真秋 様

愛知県県民生活部 部長 大久保 裕司 様

愛知県県民生活部学事振興課 課長 長谷川 好喜 様

愛知県公立大学法人 理事長 清水 哲太 様

私は、愛知県の県民生活部よりの要請によって愛知県公立大学法人が開催している、愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会委員に大学法人から指名されて参加している奥村昭雄です。

愛知県立芸術大学の「新音楽学部棟」の新築に関する実施設計の開始、および、同大学内の外人公舎と女子寮の取り壊しについて、私は了承しておりません。9月3日に行われた第5回検討会の録音をきいて疑問を感じましたので、了承していないことの確認のためにこの文書を差上げます。

この検討会は大きなテーマとして、愛知芸大のキャンパスを、全体計画を考えた上で「改修+増築によって整備するか」または「全面改築(新築)するか」というビジョンを検討するために生まれたものであると理解して参加しました。もともと県は、「改修+増築」で出来ると、2005年・2006年に調査と計画をしてこられました。大学法人側は2006年以降新築を望む先生方の先導で「全面改築」でなければ解決しないと主張されています。

私は当初の県の考えを支持します。県の学事振興課が検討した予算としてはおおよそ、改修+増築ならば140億円。それに対しての法人側全面改築案であると280億円になっており、二倍の金額です。改修の技術的な工夫は力量によって充分克服可能です。「全面改築ではなく、改修と増築でやりましょう」という意見は、検討会の中ではたしかに少数意見であります。検討会の人員構成そのものが、「全面改築」を主張してきた先生方で大半を占め、改修を主張する人が少数意見になるように、はじめから用意されているので多数・少数の問題を超越して論議すべき場面です。今回俎上に上がっているのは「新音楽学部棟の新築」だけのように見えますが、実はこれを建てるということは、将来、新コンサートホールを隣接して新築することになり、既存のそれぞれの建物をドミノ式にスクラップアンドビルドしていくことと組み合わせられており、自然破壊につながる全面改築に及ぶ計画であることは、賢い人が見れば一目瞭然です。これからゆっくり全体計画を検討する、と言いながら、新音楽学部棟そして何故か新講義棟・新学生会館も、と次々の計画が出てくることの意味が理解できません。とりあえずの緊急対応のみとしてしか考えず、どうしてこの段階で「全体計画」を検討しないのか、全く理解に苦しみます。

第 5 回の検討会では、「外人公舎と女子寮(及び職員公舎と職員住宅はいずれも 2010 年 3 月末日に法人から県に返還されて県の所有になっている、と説明されているもの)の取り壊しが県議会で予算化しているので実行してよろしいと了承されたものと思います」という報告がなされています。これは「報告事項」であって「検討事項」になっていません。従って了承する、しないという問題ではない。かねてより、この問題は全体計画に関わる重要な事項でありますから「検討」していただきたいと要望して参りました。「報告」ではなく「検討」していただきたいと重ねて要望します。了承はしておりません。

そこで知事に申し上げたい。本当に愛知芸大の将来を考えているのは、誰でしょうか。少子化と厳しい経済の中で、入学希望者が減少していることは事実です。新しい建物をどんどん建てて、更に保守管理費が増大し、学校経営が大変になる方向がわかっているながらスクラップアンドビルドをやり続けてよいとお考えでしょうか。自然保護について並々ならぬ努力の先頭に立っておられる神田知事が、秋に名古屋で開かれる COP10 において、スクラップ中の外人公舎と女子寮がある愛知芸大三ヶ峯の丘を、世界から来る自然保護関係の方達に見せなければならない事態をどうお考えですか。

愛知芸大を大切に考えて作られた桑原知事の残された意思と、1966 年開校の時の設計者の思い、そしてここをルーツとしてきた多くの卒業生の思いを、神田知事に受け継いでいただきたくて、この手紙をお届けします。外人公舎と女子寮は今まさに取り壊しが実行されようとしています。学内にもこの二つの愛すべき建物を利用したいという意見があるのに、それが県に伝わっていないと聞いています。是非、今回の取り壊しを中止していただきたいと切望します。愛知芸大全体を、壊さずに、明らかに安く出来る方法で直して使う、という方向を指示していただきたいと希望します。

皆さんが苦勞して納めた県民の税金を、何故安く出来る方法がいろいろあるのに、敢えて高くなる方法で使っているのか、世に問いたいと思います。

お返事を聞かせてください。よろしく願いいたします。

2010 年 9 月 9 日

東京芸術大学名誉教授

奥村 昭雄

奥

本村

昭

雄

